

## 通勤電車シリーズ（車内の化粧）

この話は私がまだ現役で通勤している時の話ですが、今でもこのような女性を見かけることがあります。

女性はどこでも化粧が出来ます。そして強いですね。これは通勤電車のチョットしたひとこま。

出勤するとき明石駅から乗る23～5歳の女性。ラッシュアワーなのに、平気で自分の隣の席に大きなバッグをおき、電車の中が混み合ってもお構いなしに化粧を始めました。

側にたくさんの人が立っていても知らぬ顔。化粧のパターンもバッチリ決めています。鏡を取り出すと、まず、下地のファンデーション。これが結構長くて「土山駅」。

続いて口紅の順、上唇、下唇と塗り、口をすぼめたり唇を突き出したりの百面相、ルーージュをしっかりと押さえたティッシュを座席の下に飛ばしながら、電車は『宝殿駅』に到着です。

さあ、いよいよ最後のマスカラ、念には念を入れ、じっと手鏡を凝視しながら、時間を測ったように『姫路駅』で仕上がりです。

まるで電車は自分だけの世界。その素晴らしい時間配分には、ただただ感心しちゃいます。

でも、あるとき勇気のあるおじさんが声をかけました。

『そのバッグ、上の棚に乗せましょうか』。

ワタクシも周囲の人も、彼女がどんな反応を示すのか興味津津、じっと注目していたのですが、その女性『これは割れ物が入っています。』とおじさんを睨みつけ、それでもマスカラの手は止めませんでした。

女の人って本当に強いんですね。やるもんですね。だけど黙って化粧姿を観察しているワタクシはもっと悪いかもね。

